

▲ステージに並んだ障害ごとの当事者から熱い思いが発表されました



▲発表する望月会長



▲それぞれの立場からのシンポジウム

二〇〇七年松の内も明けたばかりの一月十一日、さいたま市文化センター大ホールに続々とつめかけた埼玉県下の障害者やその関係者、何と一三〇〇人余。

「見直して！障害者自立支援法 埼玉県民集会」が開催されました。集会では、障害者団体による実態調査の報告や行政担当者や障害者等によるパネルディスカッションをはじめ、関係団体や当事者の発言等が行われました。その中でさいたま市議会に向けた請願署名活動の取り組みについても報告いたしました。

私たち、さいたま市障害者協議会とさいたま市障がい者施設連絡会の二つの団体が力を合わせ予想をはるかに上回る七万七千九筆の署名を集めることができたこと。この力が市議会を、市長を動かし「激変緩和策」を実現させたこと等を報告し、県下の障害者団体の関心を集めました。

さいたま市障害者協議会 会長 望月 武

**「見直して！障害者自立支援法」**  
 埼玉県民集会に一三〇〇人  
 一月十一日・さいたま市文化センター大ホール

# 私たちにとっての 署名請願活動

## つながることの大切さ…

### 出席者(発言順)

加藤シゲヨ(さいたま市手をつなぐ育成会)

北向 昭雄  
(さいたま市精神障害者家族会連絡会)

藤崎 明美(さいたま市視覚障害者協会)

金野 綾子  
(さいたま市肢体不自由者父母の会連合会)

松岡 英嘉  
(日本オストミー協会さいたま市支部)

町田 富雄(さいたま市聴覚障害者協会)

### コーディネーター

事務局長 浅輪田鶴子

## スタートは 「自立支援法」の勉強会

浅輪 振り返ってみますと、この署名活動は大きな成果を得られたとはいえず、中だるみもあったり、それぞれの団体にとってはどうだったんだろうかという思いもあって、今日は集まっていたきました。

一番初めは自立支援法が全然わからない、わからないうちにどんどん進んでいってしまうのでこれは大変だということ、勉強しなくちゃということになって学習フォーラムを企画しました。一番初めの学習フォーラムって覚えていきますか？

加藤 相談員といっしょだったでしょ。浅輪 相談員研修のつもりで始めたんで



浅輪田鶴子さん

浅輪 とにかく知りたいっていう人が、ずいぶんたくさんいたんだなあっていうのが良くわかって、弾みがついた

北向 私は加わったのは四月になってから、ですから私は新米です(笑)。

すよ(笑)。でも、いろいろ考えて、これではまずいんじゃないかと思って、二回目からは、やるんだったらきちつとやろうということになってきて、資料代を集めなきゃということになったんですね。何も無いところから始めたから。でもね一回目から、資料が足りないくらいでしたね。

て感じですよ。藤崎さんはいらっしやいましたか？  
藤崎 半分以上は参加しています。一回目は、すごい、こんなに来ていてるっていうのが第一印象。でずうっと聞いて、なんか話がわからなかったですね。ほんと、何の知識も無く行つたので、何を覚えていいのか難しくて。  
浅輪 わからないから行ってみようと思つたけど、やっぱりわからない。こんなにわからないんじゃないかという事になって。二回目どこでしたっけ？

金野 二回目は中央区のコミセン。

加藤 私は北向さんと逆で、最初は出ていたんですけど、半分ぐらいから忙しくて出られなかった。

松岡 私は面白くないことが多すぎました。理事会その他で配られているものがあるのに、署名項目の中に日常生活用具をはずしているんですよ。それはオストミーだけではなくいろいろあるんですよ。盲人のこともあればいろいろあるんですよ。でもあのころ、作業所のことが出て、働いても働いた賃金よりも払うものが多くなつてしまつたとか、そういうことがマスコミ等に出てしまつたもので、そういうことばかりに集中してしまつている。日常生活用具のこともついでに入れてくださいますか、はずされたわけ。私はオストミーだからそのことを言つたけ

ど、オストミーだけじゃなく、介護訓練支援用具も入っているし、自立支援活動用具も入っているんですよ。住宅のことも入っているし、情報伝達や点字のことも入っているんですよ。それはずすということは、本当に狭まつた考え方で、だから私は、障害者のなかで障害者を差別しているという考えだつたんです。



金野 綾子さん

金野 こぼれた障害のことがたくさんある、もつと末端のことまで考えてくれるということですね。

## 署名請願へのきつかけ

浅輪 二回目のとき誰かが立つて、これだけみんなが集まつて困っているんだから、なんか形のあるものにしていてもいいんじゃないかって言つたんですよ。それを受けた施設連絡会から、署名活動につなげていつたらどうだろうかという提案がきたんです。九月議会に出したいから、六月のフォーラムで署名用紙を配りましょうということになって、加速度が付いたんですよ。はつきり言つてしまつと、私たちは後から付いていくだけで、活動しながら

つくづく思ったんですが、エネルギーの違いを感じましたね。

**藤崎** 私は最初はびっくりして、それから視覚障害者に関しては何があるんだろうかと思っただけです。知的とか精神とか身体関係のことが全面的で、視覚に関するものがなかなか出てこなくて、エネルギーをもって活動するタイプでもなかったんで、やっとわかりかけてきたんです。わからないと何もできないんですよね。協議会に入ってから刺戟されていると思う。視覚の仲間はおとなしいのかな。違う障害者団体とも接触をしていきたいと思う。まだ圧倒されている(笑)



藤崎 明美さん

**北向** 途中から参加していますけど、実行委員会の中では個別の要望を取捨するようなそういう認識では取り組んでこなかったと思います。むしろ、自立支援法で障害者の負担増が実態面でどう影響していくのかにありました。実際、法が施行されはじめると、暮らしや生活面での問題点が次々と明らかになりました。国に法の問題点と改正を訴えていくことも必要だけど、施行段階で現実的でない、でも日々の影響を考えると待てない。今回は私たちが住んでいるさいたま市に負担の軽減を求

めていこうということになりました。財政事情はあるでしょうが、軽減支援にしばって請願にしました。

**浅輪** わずか三ヶ月の活動で五万を超えてる署名を集めて市議会に提出して、軽減策を実施していただくことになりましたが、三年後の見直しのときはどうなるか、オストミーのことをはじめ、日常的に必要なものに補助金が出ないということになれば、これは大変なことですからね。

### やったことない人のがんばり

**浅輪** 署名が始まり、みんな一生懸命用紙を持って行ってくれました。署名活動を通して変わったというのはどこかありませんか。精神は良く動いてくれましたよね。今までこういう活動ってなかったでしょう。

**北向** 精神にとっても請願運動とか署名活動とか、初めてと思うんです。障協の皆さんと一緒に進めていくのは心強いけど、はじめはどうしていいかわかんないです。経験がないから。まして駅頭に出る中に行くことに不安がありました。自分の姿が見えてしまいますからね。多くの方がそういう壁を乗り越えて出かけていきました。そして、思った以上に署名の数は集まりました。

**浅輪** 聴覚の方っていうのは、団体で請願とかいろいろ活動を行なっていきますよね。一緒にやったということをごんごんに考えています。

**町田** さいたま市聴覚障害者協会としては署名を集めて請願という形で出しましたが、断られて、まとまってということだったのでそのようにしました。できるだけ日常生活用具は無料でお願したいと思う。十九年度は大丈夫だと思っんですけど、継続していただければいいんですけど、継続していただければいいように皆さんと一緒に運動していただろうが成果があると思います。

**浅輪** 藤崎さん、自立支援法の資料は点字で来るんですか？

**藤崎** 一切来ないです。会としては、毎年会独自の要望書を出す中では必ず入れるんですが、いただいたことはないです。今回請願に関しても、代筆や周りの方のお願いして集まったことは集まったんですけど、自分たちのこととして考えて署名された人はどのくらいいるのかなあと思います。



町田 富雄さん

**金野** 私たちは小さな団体ですから、今まで単独で署名ということはしたこと無かったです。自立支援法はこのまま通しては、大変なのではないか、ということ、議員会館の陳情にも行き

ましたし、それから議員さんたちにもお願いにあがったり、非常に緊迫した気持ちになって、会員の皆さんにも強く訴えたんです。今回うちの会員はがんばってござって署名してくれましたから、相当集まっているはずなんです。大きな法案に立ち向かっていくためにはやっぱり大きな力で行かなければいけないんじゃないかと思っます。

**町田** 聞こえないものとしては、病院であるとか会社であるとかいろいろなところに出向くときに、やはりコミュニケーションが取れないと非常に苦労します。ですから手話通訳がいないと、本当に大変なことになります。自立支援法の中で手話通訳が有料化になって一〇%取られることになると、非常に困ります。手話通訳を増やすこともどうしても必要です。コミュニケーションができないと、どんどん生活もつらくなってしまうのではないかと思っます。

### 真つ向勝負のむずかしさ

**浅輪** 今回、私は初めて議員さんと親しくお話したり現実とその姿を見たりして、実像がよくわかったんですけど、議員向けにいろいろなことをやりましたよね。議員さんの家に行ってみたり、はがきをだしたり。加藤さん、議員さ

んの家に行きましたよね。

**加藤** 家には行かなかったんです。結局会ってもらえなかったんです。手紙攻勢ですよ。不審者に思われました。何度家に行っても会えなかったんです。電話には奥様が出て、連絡はして置いたんですけど。最終的にはとても好意的なお電話をいただいた、分かっていただけだから良かったと思いましたが、すごく勇気が要りました。初めてのことなので。

**浅輪** ともかく家に行ってみたり、議会に傍聴に行ってみたり、やっていくうちに、議員さんたちも署名の多さに圧倒されている感じがありまして、これは通さなきゃいけないかなという議会側の雰囲気は伝わってきましたね。

ということで、陳情なのか請願なのかということになったんですよ。

**北向** 去年六月から一人一人が請願書を配って、署名の輪がどんどん広がりました。議員さんも個人個人のベースでは何とか協力したいという感じになってきました。でも、議会には請願への抵抗がありました。与党派は不採択の議決をするというのです。たくさん応援を得て議長に提出したのはよいけれど、議事録に不採択って文字だけが残り、大勢の署名が消えていくというのです。議員筋から、請願ではなく、議会採択の要らない陳情や要望に切り替える方法を薦められました。

私たちには、この請願方式でこま

で署名を伸ばしてきたので、最後まで請願で通したい気持ちがあります。同時に、施策優先で陳情へ移行する柔軟な姿勢にも心がけました。九月議会に請願書を提出してから時間がかかりましたが、十二月議会になってようやく具体的な施策が見えてきました。

この間が正念場でした。早く決着をつけて荷を降ろしたいという気持ちも正直ありました。そこを踏ん張って、請願を下ろさないで、署名を一枚でも多く積み上げていく作戦をとりました。この運動を継続したことが、さいたま市を動かしました。

運動を保ち続けるために、また町に出てエネルギーを貰おうということになった。そして第三回目の駅頭宣伝行動になりました。十月十日です。最初は七月三十日、二回目が八月十日で、これで私たちのプログラムは終わったはずでした。ところが、この三回目の意味が実に大きかったと思うんです。



松岡 英嘉さん

**松岡** これを出す時点で、自民党から陳情で出せばということがあったんですよ。初め議員のところに行く第一歩がね。結果的にはよかったですね。結

**浅輪** 真正面から行ったんですよ。結

果が出たからよかったですけど、何も取れなかったらいろいろな議論があったと思いますよ。

**加藤** 結果的には与党も野党もみんなに伝わったんですよ。自民党の議員さんは最初から来てくれればというけれど、結局お互いにとってよかったですよね。

**浅輪** さいたま市の議会では、障害者のことをこんなにやったことはなかったと思いますよ。

**金野** 一番の成果ですね。議員さんが答弁しなければならぬので、ずいぶん勉強してくれたでしょう。あの成果もですよ。最初全然わかっていなかった

**加藤** 本当に障害者を理解してもらったの啓発とか啓蒙運動が難しい中で、街頭署名で一般の人たちに直接話すと非常によく理解してくれたというのはありましたね。知的の人の親でも、まだ関係ないと思っている親もいますからね。

**松岡** 一般の人は、テレビなり新聞なり毎日見ているからね。

**浅輪** 北向さんも言っていたけど、精神の人たちは街頭署名に出て行って、話しかけられて、私精神障害なんですって言える人が出てきたんですよ。あれは大きいと思うんですよ。

**北向** そうは言っても個人個人いろいろな受け止め方があるんです。まだあ

まり言いたくないなっていう人たちもいます。でも今回の運動を機会に、大きなハードルを乗り越えたって言う人が多くいると思います。



北向 昭雄さん

**藤崎** 私個人的なことなんですけど、姉が近くに住んでいるんですけど、やっぱり自分の妹が障害者だということは、あんまり周りには言わないんですよ。今回署名活動に参加して、障害者と関わるの好きじゃないってわかってきたから、あまり進めたりしなかったんですけど、たまたま署名用紙を見て、これなあについて言って、あまり理解していなかった私の姉妹が、ちょっと友達に声かけてくるって、署名を貰ってくれたのはうれしかったです。テレビの報道を見ていて、周りから理解してくれていったのがうれしかったです。

## みんなが手を携えること

**浅輪** いろいろな悩みを抱えながら障害者団体としてこれからも活動していくんですが、署名活動を行って得られたもの、これからやっていかなくては思っていることはどのようなこと

# 力を合わせて課題を解決していきましょう

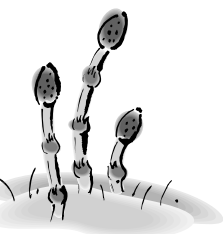
さいたま市障がい者施設連絡会事務局長 齋藤なを子

第3回学習フォーラム（2006年6月）は、それまでと明らかに様相が異なりました。障害者自立支援法が施行された直後のリアルな実態（利用料負担の重さ・理不尽さ、退所や利用抑制、施設的大幅減収、等）に会場が重苦しく緊張した雰囲気にもまれて、発言する人がしばらく出ませんでした。今日の前でおきている現実には誰にとっても他人事ではない、明日の自分の姿と重なる、そうした思いに突き動かされるように署名行動が一気にひろがっていったのではないのでしょうか。

七万七千九百筆は、私たちと市民が対話した動かぬ証です。自立支援法のこと、障がいのある人たちの実態や願いを、市内の津々浦々で集中して訴え、市民の皆さんの理解と支援をひろげてきた経験は、障がい施策を前に進め、安心して暮らせる地域づくりへの大きな財産を残したと思います。

障がい分野は、解決しなければならない課題が山積しています。そして障害者権利条約の日本での批准にむけて、みんながもっと力を合わせていくことが求められています。

「さいたま市っていいね！って言われたい」、これは今回の市議会請願行動のキャッチフレーズでした。これからも、当事者・家族の皆さんと施設・作業所などの関係者が、大きくひとつにまとまっていく活動の大切な合い言葉にしていきたいと思います。



ようか。  
北向 市ができることは最大限にやってくれたんじゃないかと私たちは評価するようにしています。それでも障害をもつ人たちの生活の現状は大変厳しく大変なことに変わりありません。これからも、障協が手を携えて頑張っていくかなくてはいけないと思う。いろいろな人に実情をもっと正しく知っていただきたい。私はこの法律が全部悪いとは思っておりません。良い点もあると思います。自立支援の目的と制度が実態に合わない面があることもわかりました。改善をして、もっといい支援法につなげていければと思います。  
町田 さいたま市聴覚障害者協会としても、自立支援法に関して不安があります。

す。一年後二年後どのように変わっていくのか、心配を持っています。  
松岡 私たちは、障害者として一番軽いとは思いますが、私たちの団体は会員数の割には、毎年四〜五人が亡くなっているんです。たぶん死亡率が一番高いのではないかと思います。そういう人たちのために役に立ちたいと思っています。  
藤崎 自立支援法で、視覚はどうなるの？ となるのと言っている間に、一割負担がきてこれはえらいことになったという感じです。負担がきて初めて実感



加藤シゲヨさん

してきたというのが現状なんです。ね。今まで無料でガイドヘルプとかたのんできたのに、たとえ一割でも今までの負担の無いところから来るのは、大きいですね。そのおかげでヘルパーを使わないようにしよう、出かけないようになろうという人が増えてきたんです。視覚の団体のいろいろな会合にも出てこなくなってきたんです。ね。そういう社会的な活動は、上の人に任せればいいやということになっているんです。今までもそうだったけど、もっと中に引込んでしまう視覚障害者が多くなってきたというの。はやっぱり問題だと思っんです。自分たち自身が外に出て行かなくなったりして、後退しないような活動を続

けていきたいと思っています。  
松岡 藤崎さん、もう一割負担しているの？  
藤崎 そうですよ。ここに聴覚の方がいて申し訳ないんですが、何で通訳がタダで、ヘルパーが一割負担なのかなあと思います。同じだと思うんです。それを知ったのは最近なんです。それすら知らなかったんです。  
加藤 行政も議員さんも一つのことに向けてくれたというのが、大きな成果だと思っので、自立支援法の激変緩和策ができたからどうということではなく、三年後の見直しもあるのでこういうことを定期的にするといいのかなあというか、今回できたこの連携を続けていって、いつでも話し合える状況みたいなものを維持できるといいとすごく思います。  
浅輪 そうですね。何とかいっしょに活動して行きたいですね。話し合うということは大切ですからね。  
金野 うちの会は、他の会はあまり出ないんですが、これだけは勉強になるって言って出ています。  
浅輪 みなさん、ありがとうございます。

# みんなが話そう

# 「団体活動ニュース」

## グリーンフィンガーズ 売上大幅増の快挙

ノーマライズうらわ

障害者自立支援法の施行以来、経済的な負担ができない、行き場所のない障がい者が、彷徨する姿を多く見受けられます。障害者が安心して地域社会で生活し、参加できる理念は、経済原則優先の前にもろくも崩れる姿を見せ始めています。が、負けずに活動を進めて行きたいと願っています。

地域デイケア施設グリーンフィンガーズでは、昨年十一月の四日間、与野ジャスコ店の無料スペース提供を受け、授産製品であるパウンドケーキの販売を行なうことができました。

通常の月間売り上げは三十〜四十万円前後ですが、ジャスコ店での販売と、大宮区役所エントランス広場での福祉販売の売り上げを合算して六十万円の売り上げを達成できました。これはグリーンフィンガーズオープン以来（五年）の快挙です。関係者の皆様の協力と理解のもとに達成できたものと、心よりお礼申し上げます。 添野ふみ子

## 会長の叙勲を祝って 新年交流会

さいたま市手をつなぐ育成会

浅輪会長が「旭日単光章を受章」という嬉しいニュースが飛び込み、ともに受章を喜び合いたいと「叙勲のお祝いと新年交流会」として、一月十九日にお祝いの会を開催致しました。当日は四十三名の会員がお祝いに駆け



お弁当とお菓子のささやかな、でもとっても楽しい会でした

つけて下さいました。会長のご厚意で勲章を見せていただき、その美しさに感動いたしました。会長からは皇居でのエピソードや叙勲者でなければ分からない苦労話などが披露され、出席者の笑いを誘いました。ジャンケンゲームにも力が入り、和やかな会となりました。

会長の叙勲は、育成会としても大変光栄なことであり会員として誇らしく励みにもなりました。これまで育成会活動の大きな原動力となり、当事者の視点で道を切り開いて下さった事に感謝し、様々な困難を乗り越えてきた上に今があることを忘れてはならないと改めて思いました。

副会長 宮部 幸子

## 県・市合同の 余興いっぱい の新年会

さいたま市難聴者・中途失聴者協会

今年には県難聴協会の当番で合同新年会が開かれました。挨拶、乾杯と型通りのプログラムが進み、昼食の弁当が届いて、飲み物と共に各テーブルに配られ皆様の空腹を満たしたと思います。

## 十周年記念 彩の国ふれあいコンサート

さいたま市障害難病団体協議会

ダイケアかものみやの講座に、音楽療法があります。月に2回「東京ブリギウギ」等のリズムに合わせ歌と身体を使いリハビリをしています。

池澤 五郎

このたび「彩の国ふれあいコンサート」に出演がきまり、「ふるさと」「母さんのうた」「エーデルワイス」「旅愁」「上を向いて歩こう」に手話とハンドベルを取り入れ、よき指導者のもとで三ヶ月間の練習にも熱が入り、その中にあっても楽しみながら行いました。



小さなハンドベルを振って、みんなで演奏しました

当日は「瑠璃の家」との合唱も意気はびつたりと合い演奏することができました。うれしかったことは、利用者の家族の温かい協力と多くの参加をいただいたことでした。終わった時、皆の目は輝き笑顔がいっぱいでした。

音楽担当 田中 松子  
ディケアかものみや

## 「耳の日」のご案内

さいたま市難聴者・中途失聴者協会

このたび、三月の耳の日にちなんで、三月十一日午後一時から障害者交流センターホールで「耳の日のつどい」を企画しました。内容は左記です。  
第一部ユニバーサルデザインの開発

## 団体紹介

### 時代を経て四福祉会連合で

—さいたま市身体障害者福祉協会—

本会は、三市合併、政令都市移行に伴い、平成十五年浦和・大宮・与野、各福祉会を統合して設立しました。

後に岩槻市がさいたま市と統合したことにより四福祉会の連合体です。  
元々「日本身体障害者団体連合会」

「埼玉県身体障害者福祉協会」各市町村福祉会と組織されていたのです。

各身体障害者福祉会の歴史は古く昭和二十四年「身体障害者福祉法」の設立に伴い結成されました。

「身体障害者手帳」交付のときに自動的に福祉会会員になるような時代でした。

全国都道府県とも、事務局が福祉事務

松森果林氏(難聴者)  
第二部手話コーラスグループ  
ステンドグラス(三人組)

松森果林さんは難聴者で、子供を育てる上で色々良く聞こえなかった体験や、お仕事でユニバーサルデザインの開発に関わり、障害者や高齢者等誰でも使いやすい商品とは何か?壁にぶつかりながらそれを乗り越えてこられた体験談を話されます。

ステンドグラスの三人組は、懐かしい歌新しい歌を織り混ぜながら、手話で表

### 所にあるところが多く、会の連絡事項、案内、すべて市側でやってくれました。いわば「官製」の親睦団体です。

このような体質に飽き足らなくて、自分たちで独立して会を結成する団体が多くなりました。

本会も望月会長を先頭に、これからの福祉会のあり方を模索しています。

「自立支援法」が制定・施行されたことにより障害者をめぐる状況は刻々と変化しているからです。

福祉会は、成り立ちから他団体と違って障害が多岐にわたっています。聴覚、視覚、肢体不自由、内部障害等、他団体が専門店ならば本会は、デパート

現されて会場一杯に動き回り、きれいな声と分かりやすい手話表現で観客を引きつけ、楽しませてくれます。

参加費は五百円で一五〇〜二〇〇人の参加を予定しております。お申込は  
FAX 667/3362 (鈴木)  
電話 651/3654 (川原)

お友達をお誘い合わせの上、是非チケットをお申し込み下さい。  
当日参加も受け付けますが二〇〇人で締め切らせていただきます。

川原 英夫

かスパーのようなものです。

このため焦点が絞れないようなときもあります。また、会の歴史が古いため高齢化がすすみ、平均年齢も六十五歳を超えています。介護保険の給付を受けている会員も年々増加しています。

若い会員を増やし、福祉会の未来を広げていくための活動を活発にして、魅力ある会にするために、皆で知恵を出し合っています。

これからも「さいたま市障害者協議会」の一員として、障害者福祉向上のための運動をすすめていきます。

さいたま市身体障害者福祉協会  
副会長 田口秀之助





おいしいものを食べると、みなさんの笑顔がふえます

# ウーロン茶で乾杯！ 余興もまじえて

## 平成十八年度交流会

第三回さいたま市障害者協議会交流会は、理事役員対象の新年会を兼ねて暖冬の亥年正月三十日（火）十二時から行われました。会場の日本料理の店木曾路（大宮区桜木町）は、大宮駅西口最寄り

で、誘導員がいる一階駐車場は障害者利用⑩常時一台分、予約により追加一台分確保し、車高二メートルを超えても可能で店の出入りは自動ドア、E昇降機は目の前、迷わず店内に移動できます。

会場椅子席は、ガイドヘルパー、ノートイカーを交え二十四人、二人の事務局員はここでも忙しく立ち居して部屋いっぱい、和気あいあいの風景です。

そんな中、少々遅刻の平林さん（代理参加）からは午前中、組織と市の懇談会で障害者自立支援法の市独自負担軽減策に感謝しつつ、四月以降「国が打ち出した負担上限額大幅引き下げ方針と市の施策の合わせ技を期待したい」旨を伝えたとの報告がありました。

さて、事務局より用意された今回の余興は、運勢を占う？阿弥陀くじで吉祥天は川原理事に微笑みしました。

一応の昼御膳が調い、松岡副会長の開会のことは始まり、望月会長は障害者自立支援法一・一県民集会で多くの思いを確認しアピールできたが、単に一節目と捉え、真に障害者の生存権が脅かされず質の高い自立支援が保障される運動を推進したい。とのあいさつがあり、次いで藤崎理事の乾杯音頭で宴たけなわとなりました。中でも、障害難病者が日常に潜む危機を回避するため不断の備えの大切さが体験で語られるなど、有意義な会となりました。

やがて、浅輪副会長が、障害者自立支援法に触れながら、閉会の辞を、田口副会長の三本締で会を納めました。

さいたま市障害児のための連絡会

渡邊シヅ子

## 事務局だより

今年度最後の生活訓練等事業、「失語症ってなあに？」に行ってきました。会場は失語症の方とご家族で溢れていました。何かを得て帰りたいという切実な想いが会場いっぱいに満ちていました。予想外の人数で、資料が足りなくなるほどだったそうです。

「失語症ライブ」という、言葉を引出す訓練に参加し、初めて失語症のIさんとお話ししました。四十代で失語症になられた、優しい目をした方でした。質問をすると、本当に一生懸命にお考えになって、「うーんとうーん」と記憶を手繰り寄せようとなさいます。でも、なかなか思い出せない。すごく悲しそうなお顔をされるので、何とかしてあげたくなります。Iさんは、奥様と一緒に毎日いろいろな所に出かけられるそうです。油絵を描いたり、健常者と囲碁をなさったりと、毎日お忙しいそうです。

この日の二〜三日前、事務局に失語症になつたばかりの女性からお電話がありました。詳しく説明すると「体調が良ければ是非行きたい」とおっしゃいました。初めより少し明るい声でした。足をお運びいただけただけでしょうか。会場の大勢の方を見たら、絶対元気が出たのではと思います。

(U)

## 編集後記

空港のブックデポで「国家の品格」という本を買いました。著者は数学者で、世界的規模でものを考えられる経験と見識を備えた方の方です。

前半は、日本及び日本人がいかに品格のない集団に成り下がってしまったかを、歴史をさかのぼったり、外国の例などを示して滔々と述べ、後半になって、では如何にすれば品格を保てるかということになるのですが、著者は日本人の生き方に「武士道精神」を取り入れよというのです。いいですね。まず大臣と、国会議員と役人に、「卑怯なまねをするな」「惻隱の情を持って」「命がけで仕事をせよ」と言いたい。空の上で読むには最適な読み物でした。(A)

さいたま市障害者協議会  
会報あ・うん第6号  
発行 さいたま市障害者協議会  
会長 望月 武  
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会  
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町 1-213-1  
大宮ふれあい福祉センター 4階  
TEL/FAX 048-653-7271  
e-mail saitamacity-handynet@nifty.com

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。